

## 児童発達支援評価表 集計結果

公表：令和 4 年 12 月 5 日

事業所名 ほしのこキッズ

		項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容または改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○		学習の時間はパーテーションなどを活用しながらブースを区切って行っている。運動の時間も、広い範囲で行動できるよう模擬授業のスペースで待つ場面も設けている。	
	②	職員の配置数は適切であるか	○		毎朝のミーティングで、その日の人員に応じた活動内容や分担を検討している。	職員の人数がより増えると、児童ひとりひとりに対する支援の幅が広がる。
	③	生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	○		4月時点は、環境に慣れない児童が待機する場所を理解しやすいよう、足型マットなどを床に設けている。	
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	○		毎日、清掃・消毒作業は欠かさず行っている。昼食、おやつ後は必ず机を消毒し、掃除機をかけている。	高圧洗浄機なども活用し、落ちづらくなっている汚れについても対応していく。
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	○		毎朝のミーティングでは各職員、考えを出し合うことを意識している。	
	⑥	保護者向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○		毎年実施している。今年度からHUGを導入したので、保護者の方が取り組みやすい形での実施を検討していく。	
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○		ホームページで公表している。保護者の方への告知も口頭で行っている。	
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善に繋げているか	○		姉妹教室の職員同士で巡回を行い、改善点についてアドバイスをいただいている。	

	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○		必要な研修は受講し、各職員に共有できている。療育内容についての研修は姉妹教室合同で実施している。	各職員の知識や経験に基づいた研修についても実施していく。
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	○		利用者の要望は反映している。教室全体の意見として作成できるよう、各職員にも聞き取りを行っている。	
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○		今年から数値化して保護者が課題に感じている部分がよりわかりやすくなるよう改善した。	
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	○		「発達支援(本人支援及び移行支援)」の項目を軸に作成している。「発達支援」のねらい及び支援内容に基づいて生活や運動、コミュニケーション、認知機能などの要素を取り入れている。個々の特性や情緒面も考慮して具体的な支援内容を設定している。	
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	○		児童発達支援計画の共有、振り返りは必ず行っている。	毎朝のミーティングにおいて、最近の児童の様子から課題を洗い出すことがあるため、支援計画とのすり合わせも行っている。
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○		実施しようと考えている内容については職員間で共有している。実施したうえでうまくいかなかったことについても、職員間で検討している。	
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○		支援目標に沿った取り組みはしつつ、活動内容は変えている。	
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成しているか	○		各児童の個別での課題、集団での課題をそれぞれ反映している。	
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○		毎朝ミーティングを行い、児童の情報を共有しながら、その日行われる活動の役割分担を行っている。	
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○		今年度から保護者へのフィードバックを再開したため、児童への支援だけでなく、保護者支援についての振り返り・共有も行っている。	
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○		毎日、個人の様子・全体の様子の記録を残し、HUGを通じて保護者にも確認していただいている。	
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	○		半年に1回モニタリングを実施している。	

関係機関や保護者との連携	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○		どの職員でも対応できるよう、児童の状況理解についてすり合わせている。	
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	○		区の相談支援事業所と電話でやり取りをし連携を図っている。	
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか	○		在籍していない。	
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか	○		在籍していない。	
	㉕	移行支援として、保育所や認定子ども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容などの情報共有と相互理解を図っているか	○		保護者や園のニーズに応じて対応している。見学だけで終わらないよう、話し合いの場も設けられるよう依頼している。	利用者すべての幼稚園・保育園とは連携できているわけではない。
	㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○		就学支援シートを作成しお渡ししている。保護者の方にも内容を確認していただいている。	
	㉗	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○		大田区主催のネットワーク会議に参加し、別事業所の職員とも話す機会を設けている。	
	㉘	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	○		幼稚園への見学・訪問等は行っている。	正式に園と交流の機会は設けていない。今後、コロナウイルスの感染状況に応じて交流の機会についても検討していく。
	㉙	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	○		区が主催しているネットワーク会議に定期的に参加し、児童発達支援事業所の在り方について検討している。	
	㉚	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○		療育後、保護者の方にその日の様子をフィードバックしながらお子さんについて情報共有を行っている。入室時も、変わったことなど無いか確認している。	フィードバックを受けるかどうかは保護者に判断をお任せしているので、受けずに帰る方もいる。HUGを通じて児童の様子が伝わるよう、記載内容を工夫する。

	⑳	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか	○		保護者の方からの子育てに関する悩みについては、フィードバックや相談支援の時間に、解決に向けて一緒に考える場を設けている。 また、姉妹教室合同でのグループ相談支援を実施し、異学年の保護者との交流機会も設けている。	
保護者への説明責任等	㉑	運営規定、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○		契約の際に説明している。変更があった際には、口頭と紙面の両方で説明している。	
	㉒	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	○		モニタリングで話した内容を踏まえ、各児童に応じた支援計画を作成している。	今年度から電子化しているため、保護者の方と一緒に確認する場を設けづらくなっている。
	㉓	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○		保護者からの相談についてはいったん持ち帰り、職員全体の意見として回答できるようにしている。	
	㉔	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○		年に数回保護者会を実施している。姉妹教室とも合同で行い、よりさまざまな保護者と交流できる機会を設けている。	
	㉕	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○		相談室でじっくりお話ができるよう、日程調整を行って対応している。	相談支援の申し込み方について、ある程度形式を設けるなど申し込みやすい体勢を整えることも検討する。
	㉖	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○		HUGを使用して情報発信を行うよう変更した。	去年は毎月お便りを発行していたが、電子化に伴いHUGでの発信に変更している。発信頻度や発信方法についての検討は行っていく。
	㉗	個人情報の取り扱いに十分注意しているか	○		鍵付書庫で書類を管理している。データに関しては外部から接続できないようになっている。	
	㉘	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○		保護者から「口外しないで欲しい」と伝えられた内容については、職員間で共有し、漏れることが無いよう配慮している。 児童が理解しやすいような伝え方を模索し、児童1人1人に併せた対応を検討している。	
	㉙	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	○		例年は夏祭りや合同発表会など開催しているが、コロナ禍の影響・感染拡大防止の観点から近年は開催を控えている。	

非常時等の対応	④1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	○		各マニュアルが策定されている。	保護者への周知が足りていないため、アプリを活用しながら告知していく。
	④2	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○		避難訓練を実施し、危険箇所や避難の仕方・役割分担の確認を行っている。	まだ参加できていない児童がいるため、全員が参加できるよう積極的に機会を設けていく。
	④3	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	○		アセスメントシートに記載していただいている。入室時に、最近の状況についての確認も行っている。	
	④4	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○		おやつ提供がある為、アレルギーの確認は紙面、口頭両方で行っている。	
	④5	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○		書類の作成を行い、公休だった職員も確認できるようにしている。	職員で声を掛け合い、その日のヒヤリについて確認する場を設ける。虐待防止委員会にてヒヤリハットの共有を継続して行っていく。
	④6	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○		研修を受けた職員が、社内でも共有を行っている。	
	④7	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	○		契約時、同意書に基づいて同意を得ている。身体拘束の可能性について個別支援計画にも記載している。	